

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第31回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「枝払いと剥皮」

「枝払い」は伐倒した木の枝を落とす作業です。立っている木の枝を切る「枝打ち」と混同されることがありますが、こちらは主に丸太として運び出す直前の作業になります。



昭和初期頃 帝室林野局木曾支局における斧による枝払い作業

かつては斧や鋸を用いて行われていた作業ですが、昭和三十年代以降は主にチェーンソーによって行われる作業となりました。太い枝がある場合は、その切り方によって木材の価値が左右されることもあり得ます。



昭和30年頃 チェーンソーによる枝払い作業 (現在の木曾森林管理署管内)

「剥皮」(木の皮剥き)は現代では山で行われることが少ない作業ですが、かつては木の皮

(檜皮や杉皮など)を屋根材に利用する需要に応えるため、木材の滑りを良くすることで運ぶ作業を楽にするため、あるいは木材の乾燥を早めるためなどの目的で行われました。



昭和初期頃 帝室林野局木曾支局での剥皮作業



年代不明 現在の東信森林管理署管内での剥皮作業

プロセスやハーベスタなどの林業機械が導入されている現代の林業の現場では、枝払いなどの作業は機械的によく短時間で終わる場合もあります。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。

